拡張機能の設定

- ストリーム管理 （1 ページ）
- Microsoft Outlook カレンダー統合 （3 ページ）
- フェデレーション （3 ページ）
- メッセージ アーカイバ （4 ページ）
- Remote Call Control（リモート呼制御） （5 ページ）

ストリーム管理

IM and Presence Service では、インスタントメッセージングのストリーム管理がサポートされています。ストリーム管理は、XEP-0198 仕様を使用して実装されています。これは、2 つの XMPP エンティティ間 (スタンザ受信確認とストリームの再開の機能を含む) をアクティブに管理するための Extensible Messaging and Presence Protocol (XMPP) を定義します。XEP-0198 の詳細については、次の仕様を参照してください。http://xmpp.org/extensions/xep-0198.html

IM and Presence Service と Cisco Jabber 間の通信が一時的に失われた場合、ストリーム管理によって、通信の停止中に送信されるすべてのインスタントメッセージが失われることはありません。設定可能なタイムアウト期間によって、メッセージの処理方法が決まります。

- Cisco Jabber がタイムアウト期間内に IM and Presence Service との通信を再確立した場合、メッセージは再送信されます。
- Cisco Jabber が IM and Presence Service との通信をタイムアウト期間内に再確立しない場合、メッセージは送信者に返されます。
- タイムアウト期間の経過後に送信されたメッセージはオフラインで保存され、Cisco Jabber が IM and Presence Service との通信を再開するときに配信され ます。

ストリーム管理は、デフォルトでクラスタ全体で有効になっています。ストリーム管理サービスパラメータを使用すると、この機能を設定できます。

ストリーム管理の設定

IM and Presence Service のストリーム管理（XEP-0198）を設定するには、次の手順を使用します。

手順

ステップ 1 Cisco Unified CM IM and Presence 管理で、**[システム（System）]** > **[サービスパラメータ（Service Parameters）]** を選択します。

ステップ 2 **サーバ** ドロップダウンから、IMとプレゼンスノードを選択します。

ステップ 3 **サービス** ドロップダウンから、**Cisco XCP ルータ** を選択します。

ステップ 4 [ストリーム管理の有効化（Enable Stream Management）] サービスパラメータを [有効（Enabled）] に設定します。

ステップ 5 [ストリーム管理パラメータ（クラスタ全体）（Stream Management Parameters (Clusterwide)）] で、ストリーム管理パラメータを設定します。

表 *1:* ストリーム管理サービスパラメータ

サービス パラメータ	説明
ストリーム管理の有効化	ストリーム管理のクラスタ全体を有効または無効にします。デフォルトの設定はイネーブルです。
ストリーム管理のタイムアウト	切断されたセッションを再開できる期間の長さ（秒数）は、タイムアウトによって制御されます。クライアントがより長いタイムアウトをネゴシエートしようとした場合（または希望するタイムアウトを指定しなかった場合）、この最大値が適用されます。 このタイムアウト後に送信されたメッセージはすべて、Cisco Jabber が IM and Presence Service を使用して再度ログインする前に、オフラインで保存され、再度ログインした後に再送信 されます。 指定範囲は 30 秒～ 90 秒です。デフォルト値は 60 秒です。
ストリーム管理バッファ（Stream Management Buffer）	ストリーム管理が有効なセッションのバッファに保持される、パケット（パケット履歴）の最大数を定義します。バッファで利用できる履歴よりも多くの履歴をクライアントが必要としている場合、ストリームの再開は失敗します。 指定範囲は 5 ～ 150 パケットで、デフォルト値は 100 パケットです。

サービス パラメータ	説明
確認応答リクエスト率	クライアントに対して最後に受信したスタンザのカウントを提供するように要求する前に、サーバが送信するスタンザの数を定義します。値を小さくするとネットワークトラフィックが増加しますが、サーバでのスタンザ履歴バッファの削減に役立ち、メモリの使用量が減少します。 この範囲は 1 ～ 64 スタンザで、デフォルト値は 5 です。 （注） 確認応答リクエスト率が小さいと、ネットワークトラフィックが増加しますが、メモリ使用量は減少します。

ステップ 6 [保存（Save）] をクリックします。

Microsoft Outlook カレンダー統合

Microsoft Outlook の予定表/会議のステータスを IM and Presence Service サーバのプレゼンス ステータスに組み込むことができます。ユーザが会議に出席している場合、そのステータスはユーザのプレゼンス ステータスの一部として表示されます。この機能は、IM and Presence Service をオンプレミス Microsoft Exchange Server またはホスト型 Office 365 サーバに接続することによって実現することができます。

Microsoft Outlook とカレンダーの統合を設定する方法の詳細は、http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-presence/products-installation-and-configuration-guides-list.html の *IM and Presence Service Microsoft Outlook* 予定表統合ガイドを参照してください。

フェデレーション

IM and Presence Service では、IM and Presence Service が管理する任意のドメイン内からフェデレーション ネットワークを作成することができます。フェデレーション展開には、以下の 2 つの主要なタイプがあります。

- ドメイン間フェデレーション：この統合により、IM and Presence Service が管理する任意のドメイン内のユーザが、外部ドメインユーザとアベイラビリティ情報およびインスタントメッセージング（IM）を交換することができます。外部ドメインは、Microsoft、Google、IBM、または AOL サーバによって管理されている場合があります。IM and Presence Service は、さまざまなプロトコルを使用して、外部ドメイン内のサーバと通信することが可能です。
- パーティション分割されたドメイン内フェデレーション：この統合により、IM and Presence Service と Microsoft サーバ（たとえば、Microsoft Lync）は、共通のドメインまたは一連のドメインをホストします。この統合によって、単一の企業内の IM and Presence Service ク

ライアント ユーザと Microsoft Lync ユーザがインスタント メッセージングおよびアベイラビリティを交換することができるようになります。

- SIP オープンフェデレーション：Cisco IM and Presence サービスは、Cisco Jabber クライアントで SIP オープンフェデレーションをサポートします。管理者は SIP オープンフェデレーションを設定して、Cisco Jabber ユーザが、利用可能なすべてのドメインのユーザとのシームレスなフェデレーションを行えるようにすることができます。オープンフェデレーションは、単一のスタティックルートを使用するすべてのドメインに対して設定できます。スタティックルートにより、Cisco Jabber は任意の外部ドメインとフェデレーションを行うことができます。さらに重要な点として、個々のドメインに対して SIP フェデレーションを設定および管理する場合にかかる時間が大幅に削減されます。

詳細な設定手順は、http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-presence/products-installation-and-configuration-guides-list.htmlの*Cisco Unified Communications Manager* での *IM and Presence Service* に対するドメイン間フェデレーション あるいは *Cisco Unified Communications Manager* の *IM and Presence Service* 用のパーティション化ドメイン内フェデレーションを参照してください。

メッセージ アーカイバ

多くの業界では、インスタント メッセージが、他のビジネス レコードと同じ適合認定のガイドラインに従うことが求められています。これらの規制を順守するには、ご使用のシステムがすべてのビジネス レコードを記録してアーカイブする必要があり、アーカイブされたレコードが取得可能になっている必要があります。

IM and Presence Service は、単一クラスタ ネットワーク構成、クラスタ間ネットワーク構成、または連動ネットワーク構成における以下の IM アクティビティ用のデータを収集して、インスタント メッセージング（IM）コンプライアンスに対するサポートを提供します。

- ポイントツーポイント メッセージ
- グループ チャット： これには、Ad-hoc または一時チャット メッセージと、常設チャット メッセージがあります。
- IM Compliance のコンポーネント
- IM Compliance 用サンプル トポロジおよびメッセージ フロー

IM コンプライアンスの設定の詳細については、http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-presence/products-installation-and-configuration-guides-list.htmlの*Cisco Unified Communications Manager* での *IM and Presence Service* のインスタント メッセージ コンプライアンスを参照してください。

Remote Call Control（リモート呼制御）

リモート通話コントロール（RCC）を使用すると、企業ユーザが Microsoft Lync（サードパーティ製デスクトップ インスタント メッセージング（IM）アプリケーション）経由で Cisco Unified IP Phone または Cisco IP Communicator を制御できるようになります。ユーザが Microsoft Lync クライアントにサインインすると、Lync サーバは IM and Presence サービス ノードを通じて Cisco Unified Communications Manager へ、Lync クライアントでのユーザのアクションに応じた通話機能のセットアップ、終了、保持を指示します。

Remote Call Control の設定の詳細は、http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-presence/products-installation-and-configuration-guides-list.htmlの *Microsoft Lync* サーバを使用した、*IM and Presence Service on Cisco Unified Communications Manager* のリモート通話コントロール を参照してください。

翻訳について
このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。